2022年09月15日 中日新聞 朝刊 25頁

学ぶ

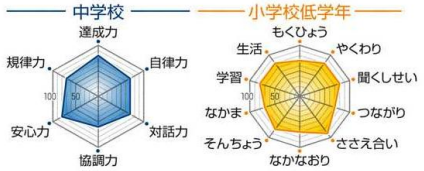
子どもが主役のクラス運営

「学級力」で課題解決

教員にとって、教科指導とともに「車の両輪」と言われる学級経営。新学習指導要領でも、児童・生徒が学校生活を通じて学級や学校の課題を見つけ、話し合って意思決定する力を伸ばすことは目標になっている。新型コロナウイルス禍で校外活動が制限される中、子どもが自律的に学級づくりに関わる力を「学級力」と呼び、向上させる取り組みが改めて注目されている。（白井春菜）

学級力　学級経営の考え方の一つ。子どもが自ら学級づくりに関わるために必要な要素として、小学校では目標を立てて達成する、級友と対話する、仲間と協調する、安心な環境づくり、きまりを守る―の五つを据える。中学、高校では自分たちを律する力も加える。アンケートで学級力を自己評価し、「聞く姿勢」「支え合い」など複数項目のレーダーチャートを基に現状を話し合い、改善のために主体的に動くという三つの活動を、子どもたちが計画的に繰り返す。関東、中部、関西各地区に教員や研究者らが事例研究をする学級力向上研究会がある。

学級力を可視化するレーダーチャートの例



教え合い学力向上も

愛知県幸田町の南部中学校。二年三組の生徒約四十人が、学級活動の時間にクラスの課題を話し合った。

「二学期からは二年が学校を引っ張っていきます。私たちの生活で直したいところは」。学級委員長の丸山夏葵さん(十四)の問いかけに、次々と手が挙がる。「廊下に並ぶ時にしゃべらない」「授業の三分前に着席」

課題が並んだ黒板を見ながら、行動をどう改めるかをみんなで決めていった。

学級力は早稲田大大学院教育学研究科の田中博之教授(六三)=教育方法学=が二十年近く前に提唱した教育手法。子どもがクラスを自己評価し、目標を定め、努力するサイクルを繰り返す。田中教授らの研究によれば、仲が良く、ルールが守れて、教え合える学級は相関的に学力が高まる。

二年三組の話し合いを見守った担任の堀田琢司教諭(二七)はコロナ禍で行事や活動が縮小されがちな現状に「教育は生徒が主役。子どもの声を拾って主体的に取り組ませたい」と、今春から学級力の手法を取り入れた。生徒同士の対話を重視し、学活や、行事の準備で余った時間などを充て、一学期は十数回、自己評価の機会をつくった。学級副委員長の山田美音さん(一三)は「意見のまとめ方が難しい」。同じく副委員長鈴木翔也さん(一三)は「話し合いを重ねて、クラスの雰囲気をもっと良くしたい」と意気込む。

クラスを自己評価しながら、自分たちの生活で直したい点を話し合う生徒＝愛知県幸田町の南部中で

効果は授業にも表れ始めた。堀田教諭が受け持つ数学では年度当初に比べて、分からない問題があった時に周りの生徒と教え合う姿が増えた。教室が安心な場所だと思えるからこそ「人と違う意見も発言できるようになった。協調する力も伸びている」と手応えを感じている。

中部学級力向上研究会の会合で、学級運営について意見交換する教員＝名古屋市東区の市教育館で

中部地方の教員らでつくる中部学級力向上研究会の代表で、愛知教育大の磯部征尊准教授(四五)は「目標を振り返る機会が大切。改善点を把握し、係活動などの取り組みを微調整することで、次の課題を見つけられる」と話す。一方で「教員には多様化する子どもに対応した学級のマネジメント力が求められているが、学級経営を学ぶ機会は少ない」とも指摘。学校現場ではプログラミングや探究型学習など授業で扱う内容がめじろ押しで「学力向上やGIGAスクール構想実現の研修が重視される傾向にある」と話す。

大阪大谷大教育学部の今宮信吾教授(五七)も「コロナ禍で日常生活で密に触れ合う機会が制限される今こそ、学校での集団での学び合いが重要」と、学級力の意義を訴える。

「教員養成課程でも、学級経営に比べて教科指導が重視されがち。特別活動に関する講義はあるが、子どもの主体性を育むという視点がまだ十分でない」と課題を挙げる。

自己評価を「見える化」

学級力を提唱した田中教授に、狙いや必要性を聞いた。

◇

学力調査と一緒に行う児童・生徒向けアンケートを作った二十年近く前、子ども同士で教え合える雰囲気の学級は相関的に学力が高かった。そこで、子どもたちが持つ集団としての力を「学級力」と名付け、研究することにした。

当時は学級崩壊とまではいかないものの、授業中の私語や人間関係のトラブルなど、学級内の荒れが問題視されていた。子どもが持つエネルギーが良い方向に働けば、クラスは良くなる。子どもの力を借りた学級運営が必要だと考えた。

子どもは起きている時、家庭よりも長く学級で過ごす。その場所を自分たちで良くするのは自然なこと。レーダーチャートで現状を可視化することで、改善に積極的に取り組んでくれる。

教員の辞職理由で目立つのは、学級経営がうまくいかない悩みだ。子どもは教わるよりも、自ら学ぶことで力を付けるため、学級力が高いクラスでは教科指導もうまくいく。学級力は教員不足を改善する一助にもなると思う。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています